

## ホームページ掲載内容

同意の取得について（観察研究の場合）：

今回の研究では患者さんから同意取得はせず、その代りに対象となる患者さんへ向けホームページで情報を公開しております。以下、研究の概要を記載しておりますので、本研究の対象となる患者さんで、ご自身の情報は利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

研究課題名：

運動機能低下と併存疾患の診療実態と医療経済評価

研究責任者：循環器内科学講座 平野景子

研究の意義と目的：

ロコモティブシンドローム（ロコモ：運動器症候群）は、2007年に日本整形外科学会から提唱された概念です。超高齢社会を迎えた日本の未来を見据え、筋肉や骨、関節、椎間板といった運動器の障害によって移動機能の低下をきたし、要介護になったり、要介護になる危険の高い状態になったりする状態と定義されています。一方、フレイル（Frailty：虚弱）は、2014年に日本老年学会が提唱した概念で、身体的な問題だけでなく、認知機能障害やうつといった精神・心理的問題、独居や経済的困窮などの社会的問題を含む状態として捉えられています。フレイルは、健康な状態と身体機能が障害された状態の中間的な脆弱な状態とされ、可逆性がある状態とされています。ロコモもフレイルも、どちらの概念も、加齢にともなう機能低下に対し、何らかの対策を取らないと要介護状態を引き起こす可能性が高いことを示すものです。

少子高齢化先進国である我が国では、社会の持続性確保のために、運動による健康寿命延伸、地域のつながりの再生が重要と考えられています。これらを産学連携で発展させるためには、加齢に伴う機能低下の予防による効果と市場規模を具体的に示す必要があると考えられます。

先進国高齢者の多くは慢性疾病（Comorbidity, Multimorbidity）を有していると考えられています。これらの併存疾病は死亡や再入院、QOLといった結果に影響を与えると考えられてきました。運動機能の低下も同様にこれらの結果に影響を与えている可能性が考えられます。しかしながら、我が国ではその実態は未だ不明です。そこで、我々は、運動機能低下と併存疾病の診療実態のばらつきや医療経済的インパクトを明らかにすることを目的としています。

観察研究の方法と対象：

本研究の対象となる患者さんは、西暦2015年4月1日から西暦2018年8月31日の間に順天堂医院に来院された方です。

利用させていただく情報は下記です。

- 看護師による転倒・転落アセスメント
- 看護実施記録
- 診療報酬明細書（レセプト）
- DPCデータ

研究解析期間：倫理審査承認日 ～ 西暦 2022 年 10 月 30 日

被験者の保護：

本研究に関係するすべての研究者は、ヘルシンキ宣言（2013 年 10 月 WMA フォルタレザ総会[ブラジル]で修正版）及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（2017 年 5 月 29 日）に従って本研究を実施します。

個人情報の保護：

患者さんの情報は、個人を特定できる情報とは切り離れた上で使用します。

また、研究成果を学会や学術雑誌で発表されますが、患者さん個人を特定できる個人情報は含みません。

利益相反について：

本研究は、文部科学省補助事業「COI」の学内プロジェクト研究費によって実施しておりますので、外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画し実施するものです。従いまして、研究結果および解析等に影響を及ぼすことはありません。また、本研究の責任医師および分担医師には開示すべき利益相反はありません。

お問い合わせ先：

順天堂大学医学部附属順天堂医院 循環器内科学講座

電話：03-3813-3111 （3303）

研究担当者：平野 景子